



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第13号

令和2年10月14日発行

文責 校長 宮地 浩幸

ツバキの実の採取

加唐島の特産物の一つに椿油があります。つばきは本校の永遠の目標の頭文字にもなっています。

つ…つよい体 ば…バリバリ勉強 き…きちんと挨拶

学校の周りにもたくさんのツバキの木が存在し、豊かに実をつけています。せっかくこのような豊かな自然環境に恵まれていますので、例年、本校では区長さんをお願いをして、ツバキの実を採取し、椿油を作る体験学習を計画しています。

昔と違い、子ども達は自然から直接学ぶ機会も少なくなっています。産業が発達し、物が豊かになってくると私たちの生活は潤いますが、何でもスーパーで手に入ることになり、そのありがたさがわからなくなり、魚はスーパーでは切り身で売られ、その原型をとどめません。切り身がどのようにしてつくられているか知らない子どももいるそうです。自然の中で、魚釣りをしたことがある子ども達は、切り身が魚のどの部位なのか想像することができます。魚の切り身さえそのような状況ですので、自然の中から油をどのようにして得ているのか。何でもスーパーで手に入る時代ではそのようなことを考えることさえしなくなっているのでしょうか。島の子ども達にとっては、珍しい椿油の採取工程かもしれませんが、貴重な体験だと思います。今回の体験を通して、商品を作る大変さや物のありがたさなどを感じ、社会生活に対する規範意識の一助になれば幸いです。



楽しくダンス

9月30日から、特別非常勤講師として小野美穂先生をお招きして、体育の時間にダンスを指導してもらっています。先生の熱心で、楽しいご指導の下、軽快なリズムに合わせて、児童生徒はいきいきと自分を表現しているように思います。中学校では数年前から保健体育の時間に武道又はダンスのどちらかを選択して実施することが義務付けられています。多くの学校では、日本の伝統文化として武道を取り入れ、学習指導要領に示される「伝統や文化に関する教育の充実」に対応しようとするところが多



いのですが、本校においては、児童生徒の年齢や男女のバランスを考え、ダンスを選択しています。子ども達は体育大会で「加唐ソーラン」を披露しました。異年齢集団での表現は、同一年齢での表現とは異なり、演技がきちんとそろうというのは、なかなか難しいものの、一人ひとりの子ども達の表現がいろいろあってなかなか微笑ましいものです。そのことを小野先生も十分ご承知で、一人ひとりの役割をきちんと設定して指導をされます。また、少しずつ一人ひとりの子ども達が上手になっていくのも顕著に見えてきますので、ご指導に感謝するばかりです。校長として、ダンスの指導を受けて、感性豊かで、体を動かすことの楽しさを実感できてくれることを願うばかりです。

ふるさとに恩返し

コロナ禍において、日本経済が大きく打撃を受けたことは皆さんが知るところだと思います。先日テレビで見ていると人気漫画家の板垣恵介さんの話をテレビで取り上げていて、島の子ども達に是非伝えたいと思っ
て、10月6日の朝、全校朝会で話をしました。北海道新聞によれば、阿寒湖温泉でも、コロナ禍において観光客が激減したそうです。阿寒湖はマリモで有名な湖です。

阿寒湖温泉に観光客が戻るように何か方法がないかと考えていたところに、釧路出身の板垣恵介さんが、人気アニメ「グラップラー刃牙（ばき）」の原画を提供して下さったそうです。アニメの影響力はとても大きく、そのファンの人たちが大勢阿寒湖温泉を訪れるようになりました。提供した原画については、自由に使ってくださいと言われ、関連グッズが人気を呼んでいるようです。板垣さんは「ふるさととは、親と同じで孝行するのが当然」とおっしゃっていました。この話を聞いたときに、学校では教育目標を「ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成」とし、日々教育活動に励んでいることと結びつけました。



ところで、ふるさとの魅力とはどのようなことなのだろうかと考えることがあります。もちろん、加唐島や松島の自然豊かな環境は、その典型的な例ではありますが、今回の板垣さんの思いのように、将来恩返しをしたくなるように、ふるさとで毎日培った生活こそが、子ども達のふるさとの魅力として残るものではないかなと考えます。島の魅力を発信できる能力をつけるためには、子どもたち自身がふるさとの魅力を実感できるものでなければならないと思います。子ども達が将来大輪を咲かせふるさとへ恩返ししてくれることを期待します。

一寸の虫にも五分の魂

「一寸の虫にも五分の魂」皆さんはこの言葉の意味を知っていますか？比較的に間違えて使われやすい言葉です。文面だけを読めば、「小さな虫にも命があるから大切にしてください」ととらえられやすいのですが、実は「小さく弱い者にも、それ相当の意地や根性があるのだから、どんな相手でも侮ってはならない」というたとえなのです。最近子ども達の様子を見ていると毎日楽しいそうに、のびのび生活している様子が窺えます。ただ、これから広い世の中に出ているいろいろな困難に遭遇することもあるでしょう。加唐小中学校は小さい学校ですが、母校の自覚と誇りをもって、力強く世の中の荒波に立ち向かっていってほしいと思います。